琉球大学学術リポジトリ

便利な押入れの工夫いろいろ　（つづき）

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 比嘉, 美佐子, Higa, Misako メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19848

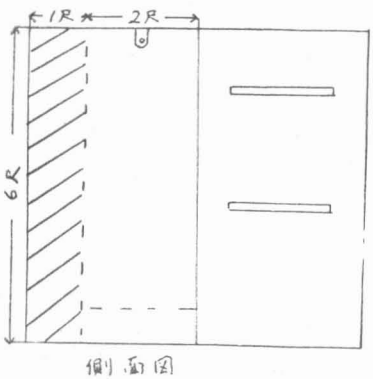
便利な押入れの工夫 いろいろ（つゞき）

（図五）のA

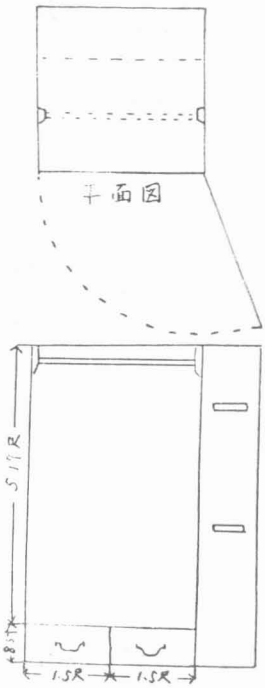
四畳半又は三畳の部屋によく見られる三尺巾の押入れです。洋服の管理を主にし、余分の空間を利用して引出しを設けてみました。

片開き戸にはベルトその他のアクセサリー（かざり品など）を下げることが出来るように工夫致しましょう。

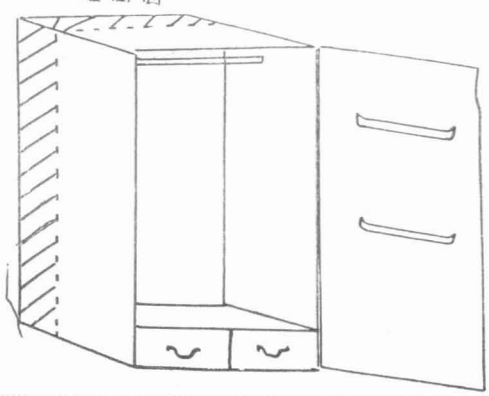
（図五）のA



側面図

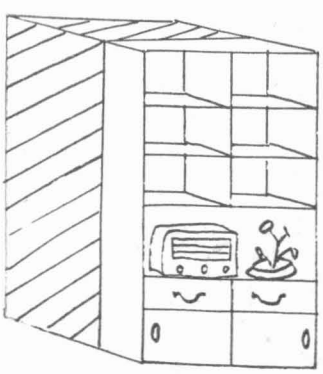


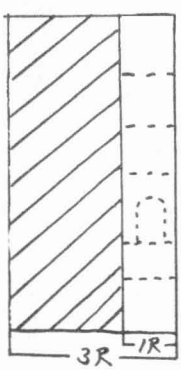
正面図



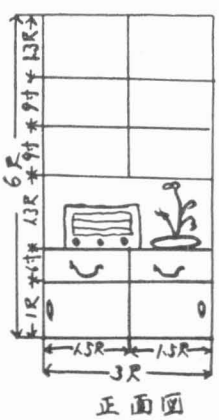
（図五）のB

（図五のA）の裏側で茶の間又は居間に面していると、このような工夫が考えられましょう。棚の部分は本棚にも使用出来ますし、又引ちがい戸でその他のこまもの入れにも出来ましょう。


姿図

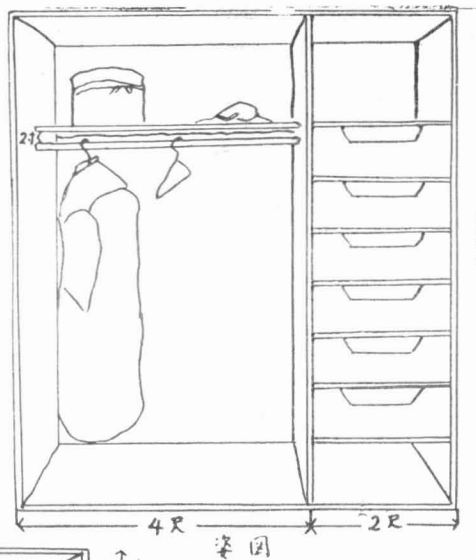


側面図

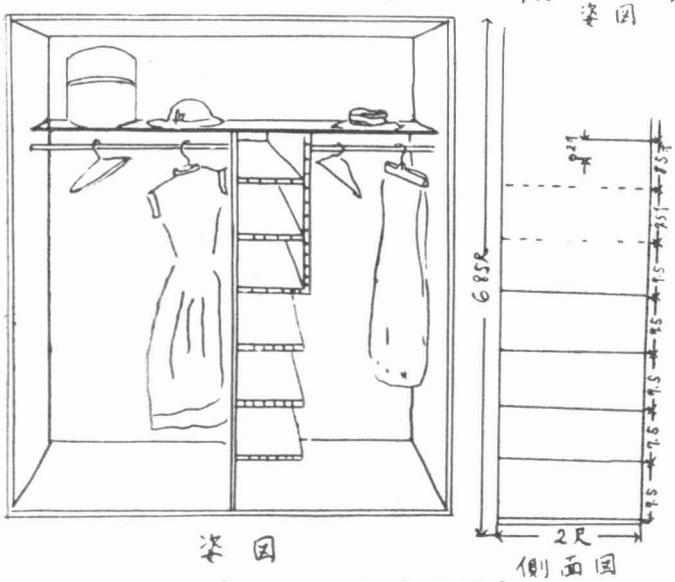


正面図

（図六）
一人用のクローゼットで一間巾の押入れを基準にして計画されたものです。右手の引出しは下着類その他の衣類入れに利用出来ましょう。



（図七）
（図六）と同じ規格のものを二人用のクローゼットとして考えられた例です。



以上は主として一間巾と半間巾の押入れの利用を数種述べましたが、それぞれがそのままどの家庭にも通ずるという訳でなく、ほんの一例を示したにすぎません。その他数多くの工夫が考えられます。例えば、かもいの上にある小かべを物入れに利用する事も可能ではありませんでしょうか。それから小住宅においては従来通りの床の間の規格を小さくして上下の空間を押入れにでも使用しないと、家財道具の管理に困る家庭が多々あると思います。只々伝統や形式にとらわれて、押入れやその他の物入れも充分にない十四・五坪の住宅に大邸宅同様同じ大きさの床の間を設ける事は今一応反省すべきではないでしょうか。床の間は芸術作品のかんしょうの場であり、もし知らず知らずのうちに物置きにでもなるならば、これこれ実生活にそくした住まいの設計をし直さなければならないでしょう。　おわり

（比嘉　美佐子）

右は琉大家庭管理実習場における押入れの改造例